

④プログラム

- I 記念講演『あほなことせえ』
京都大学大学院人間・環境学研究科
教授 酒井敏先生
- II ポスター発表・グループ討議

⑤活動の様子

本校生徒は、「廃棄食材を原料とした機能性バイオプラスチックの開発」について発表した。京都大学の先生や学生、他校の生徒から研究内容や研究の進め方について多くの指摘や質問を受けたが、それに自分たちなりの答えや意見をしっかりと返すことができていた。研究に対して客観的な意見を聞くことで研究を見直し、他校の生徒の研究に触発され今後の方向性を考える機会となった。また、他校の多様な発表を聞くことで探究活動に対する意義や熱意を再確認することができた。



写真 76 ポスター発表の様子



写真 77 大学教員、他校生徒とのグループ討議

(6) グローバル・クラスルーム主催「第 16 回全日本高校生模擬国連大会」

①概要

本大会は、全国各地から集まった高校生が各校 2 人 1 組となり、実際の国連会議を模して、各国の大使として熱い議論を交わすというもので、本校はこれまで 5 回出場している。会議において生徒はドイツ大使を務めた。今回の会議は国際労働機関理事会 (ILO) の「『多国籍企業及び社会政策に関する原則の三者宣言』の第 6 回改定“Tripartite declaration of principles concerning multinational enterprises and social policy”」を議題とし、①多国籍企業が提供すべき社会保障について、②新型コロナウイルス対応における個人データの扱いについてという 2 つの論点についての話し合いが行われた。議場では、似た考えを持つ国同士で集まり、グループごとに成果文書を残すべく活発な交渉が交わされた。本校生はスピーチをこなし、積極的に色々なグループと意見交換をしたが、最終的に決議文が棄却され、悔いの残す結果となった。

②日時・場所 令和 4 年 11 月 12 日 (土)・13 日 (日)・国連大学 (東京都渋谷区)

③参加生徒 創造科学科 1 年生 2 名



写真 78 大会参加生徒



写真 79 担当国ドイツに関する政策スピーチ

(7) 甲南大学主催「リサーチフェスタ 2022」

①目標

自分たちの研究を発表し、他者の研究発表を聴講することで、課題を見つけ、それに取り組む「探究活動」について深く知ることを目的とした発表会である。文系、理系問わず、また高校生だけでなく大学生も参加することから、幅広い分野の研究を知る事で自分たちの研究を見直すことを目標とした。

②日時・場所 令和4年12月18日(日)・オンライン

③内容

午前中に1回前発表を行い、そこで気づいたこと、指摘を受けたことをもとに短時間で発表スライドを改善して午後からの本発表を30分の時間内で3回行った。本プログラムは、文系・理系問わず幅広い研究発表を高校生、大学生、大学院生の発表合わせて500件以上の発表・審査を行うもので、1年生の理数探究では初めての外部発表会であった。

④参加生徒・発表テーマ

創造科学科1年生5名(1団体)が、「理数探究」の研究(「癒し系と苛々系～虫の鳴き声の受け取り方」)を発表した。



写真 80 発表の様子①



写真 81 発表の様子②

(8) 文部科学省、筑波大学 (WWL 幹事管理機関・SGH ネットワーク 幹事校管理機関) 主催
「2022 年度全国高校生フォーラム」

①目的

文部科学省が実施している WWW 及び SGH ネットワークに参加する高校生がオンラインにより一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等をプレゼンテーションすると共に生徒交流会を行う。

②日時・場所 令和4年12月18日(日) 13:00~17:30・オンライン

③参加生徒 創造科学科2年生1名 ※参加枠は各学校1名

④内容

英語による課題研究発表と双方向の英語による生徒交流会(テーマ別分科会)

〔プログラム〕

1. 13:00-13:07 開会式・全体説明※
2. 13:08-15:04 プレゼンテーション(非公開)
3. 15:15-16:35 参加生徒交流会(テーマ別分科会)(非公開)
4. 16:50-17:30 講評・受賞校コメント・閉会式※

⑤参加生徒感想

このフォーラムでは、僕自身が研究を行っている研究についてプレゼンテーションを行いました。まずアドバイザーの岡本尚也先生より、研究の中で定量変化、定積変化の2つの軸を立てたうえで進めている点について評価していただきました。僕の研究の中で重きを置いているポイントの1つだったので、その点を評価していただけたことは非常に自信にもつながりました。また、同時に研究の中で行った実験の結果について要因をさらに細かく分析する必要があるとの指摘もいただきました。次から次に新しいことを考えて大きくしていこうと考えていたけれど、1つの部分を深く掘り下げることが重要だと思いました。少し調べて知ったつもりになったことがこれまでは多かったように感じたので的を絞って、先行研究等も参考にしながら研究をより良いものにしていこうと思います。結果を形づくる要素一つ一つを今一度再確認して研究の方向性を改めて考え直そうと思います。今回は貴重な先生方からの意見をいただき、自分の研究を客観的にみることができた非常に有意義な経験になりました。

(9) ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会・特定非営利活動法人関西 NGO 協議会
主催「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022」

①目的

- ・将来、世界的な視野を持って、社会課題の解決に向けて行動がとれる次世代の育成
- ・関西地域から全国的に、高校生を含めた国際協力・社会貢献分野に関わる多様な人材・セクターのネットワークの強化、連携の促進

これから、今まで以上に質の高い充実した国際協力活動を展開してゆくためには、若い世代の理解と参加が必要である。また、各セクターの連携や協働は、ますます重要な課題となる。

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth では、高校生という早い頃から、本分野に参加し理解を深めることによって、将来世界的な視野を持って社会課題の解決へ向け行動を取れる若い世代を育成する。また、若い世代を中心とした意見交換・情報交換・発表の場をつくり、国際交流・協力に関わる様々なセクターがつながる環境づくりを目指している。

(ワン・ワールド・フェスティバル for Youth HP より)

②日時・場所 令和4年12月18日（日）・大阪YMCA（対面）とオンラインのハイブリッド

③参加生徒・内容

今回は創造科学科2年生1名が実行委員として参加し、講義やアドボカシーの企画・運営の準備を進めてきた。当日はYMCA大阪に集合し、イベントを運営した。

また、グローバルリサーチ受講生2年生2名と創造科学科2年生1名が高校生活動報告会に参加し、「ベトナムの小学生の栄養教育の改善」、「日本における難民の自立プロセスの課題と解決法」というタイトルで発表を行った。

1年生の生徒が会場に16名、自宅から10名オンラインで参加し、グローバル社会における課題や他校の取り組みについて学んだ。



写真 82 大会本部運営の様子



写真 83 実行委員の高校生



写真 84 発表の様子①



写真 85 発表の様子②

(10) ASEP 台湾高雄市教育局主催 “Asian Student Exchange Program (ASEP) 2022”

①目標

- ・英語で書かれた情報を調査し、英語でプレゼンテーションを行うことにより、表現力と論理的思考力を高める。
- ・海外の生徒と協働で学習することにより、異文化に関する知識を深め、外国の文化を尊重することを学ぶ。

②日時・場所 令和4年12月27日(火)・28日(水)(オンライン)

③内容 台湾高雄市立路竹高級中學生徒(高校生)との英語による協働プレゼンテーション

・ネットワークを活用した事前協働学習

・大会当日は、指定のタイムテーブルにしたがって各チームがオンライン会議システムで発表し、8分間の質疑応答に参加する。オーディエンスはチャット機能を用いて質問を入力し、発表者はそれに答える。

④参加生徒

台湾高雄市内の大学、高等学校、中学校、フィリピン、インド、インドネシア、インド、日本、韓国、タイ、ベトナムの大学、高等学校、中学校

本校参加生徒：創造科学科2年生3名(相手校 高雄市立路竹高級中学)うち2名は8月のWYMにも参加している。

⑤大会テーマ

“The Balance and Conflict between Economic Development and Environmental Sustainability – Focus on

SDGs” (「経済発展と環境維持のバランスと相反するもの—SDGsに焦点を当てて—」)

⑥本校・相手校の発表内容

発表タイトル “Human-wildlife Conflicts: The Conflicts between Animal Protection and Infrastructure Planning”

本発表では、お互いの学校が所在する地域で経済発展のために生息地が奪われ絶滅の危機に瀕している鳥(台湾はクロツラヘラサギ、本校はコウノトリ)の保護を事例として取り上げ、解決策について提案した。



写真 86 参加生徒



写真 87 大会当日の様子

⑦参加生徒の感想(一部抜粋)

・ Listening to other schools' presentations as well as my own, I felt that the most important thing was to make sure that the audience could understand. It is great to speak fluently with difficult words, but we must not forget that a presentation is not a competition to see how fluently you can speak English, but rather a place to communicate with the audience. That is why I felt that I should incorporate “pauses” and questions into my presentations. It was a good

opportunity for me to discover new issues. It was also a very meaningful opportunity for me to learn about the topography and cultural values that contribute to the challenges and issues in Taiwan.

- The most impressive part of ASEP was that we were able to mix Taiwanese and Japanese people into a team, divide our presentations into units, and create presentation materials in which each person had a role to play. The first good thing about this was that it made us more efficient. The second advantage was that we were able to incorporate the opinions of both countries. In the end, the students in Japan and Taiwan made a presentation together in their respective countries, but since we were able to communicate with each other via SNS (LINE) before that, the process went smoothly. I am grateful to the people in Taiwan for their willingness to exchange their addresses with us.

I keenly felt the weakness of my English and lack of vocabulary. I thought I had been focusing a lot of my English output, especially during the past six months, but it was not enough at all. I would like to try various things in foreign languages, not only English, when I go to university or start working so I would like to be more fluent in languages other than my mother tongue. The people in Taiwan had less resistance to speaking English than I did, so I received a lot of inspiration from other high school students whose second language is English.

- Since I did not have a chance to speak face-to-face with the Taiwanese side, the most difficult part was the process of making presentations and slides. We were able to use other methods of communication such as LINE, but even then, there were still limits to how much we could communicate. However, although I struggled with the project, I was able to complete it satisfactorily.

As for the presentation that we gave, it was a pre-recorded video, so I practiced a lot and was able to finish my part without being too nervous. However, in order to "measure my English ability", which was my initial purpose of participating, I think that a face-to-face presentation would have been better. On the day of ASEP, we were more conscious of other groups' presentations than our own presentations. I think that being able to participate and observe many presentations in English was a great source of help in improving my English skills. Until now, when conducting research at school, I formed groups with my classmates to research and present, but this time I worked as a team with people I had met for the first time and even people from different countries. After actually working together, I learned how great the language barrier can be. But at the same time, I think I was able to catch a glimpse of just how vast the world is beyond the walls of my own country. Next time, when I do activities like this, I strongly feel that I want to be able to jump into that world and be active instead of just glimpsing it, and my motivation for language learning has greatly increased.

- In terms of what I learned, I think the biggest thing I learned was about communicating in English. As I mentioned earlier, I have had very few opportunities to speak English in my daily life, and only a few in school. Therefore, it was very refreshing to be in an environment like this where I could only communicate in English, and I realized that I am not able to output the English I have learned so far at all. I discovered I need to improve not only my listening skills, but also my vocabulary and how I express my thoughts. I would like to work in a job that involves interacting with people overseas in the future. I would like to continue to improve the English skills that I have learned I am lacking in, not only while I am still in high school, but also when at university and in the workforce. Due to this project, I was able to build a community not only with the people in my paired group but also with people from many other countries and regions. I would like to make the most of this experience so that it will be beneficial to me. Throughout my participation in this project, I was made keenly aware that I still have a lot to learn in English. I would like to use this as motivation to study English even harder in the future.

(11) 第15回 サイエンスフェア in 兵庫

①概要

本発表会は科学技術分野の探究活動に取り組む高校生が発表を行い、大学教授や、企業の研究者からの助言を受けることで、研究内容をより深めるとともに、多くの学生との交流を行うことを目的としたものである。発表や質疑応答を行うことで自分たちの研究の魅力を外部に発信するとともにその内容理解を深めることができた。また、他校の生徒の発表を多く聞くことができ刺激を受ける機会となった。

～発表タイトル～

物理1班：地盤と液状化の関係 生物班：長田区内“ドバト”の分布調査
化学班：廃棄食品を原料とした機能性プラスチックの開発

②日時・場所 令和5年1月29日（日）・神戸大学統合研究拠点他

③参加生徒 創造応用I（自然科学分野）物理1班・生物班（口頭発表）、化学班（ポスター発表）

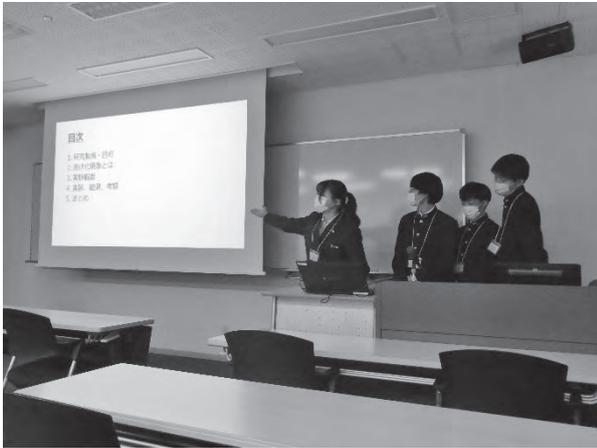


写真 88 物理1班口頭発表



写真 89 化学班ポスター発表

(12) 兵庫県教育委員会主催「令和4年度高校生 SDGs 探究発表会」

①概要

本プログラムは管理機関の兵庫県教育委員会が主催し、本校が幹事校として運営するものである。

ア 目的

- (1) 高校生のグローバルな社会課題等への関心を高め、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) 持続可能な社会の担い手になるため、SDGsを手がかりに、地球市民としての在り方や生き方を考えるきっかけとする。
- (3) 開発教育や課題研究に取り組む高校と大学等との交流を促進し、高等学校教育改革に資するネットワークの形成を図り、高等学校教育の充実を図る。

イ 日時・場所 令和5年2月5日（日） 10:00 ～ 15:30・兵庫県立兵庫高等学校（講堂）

ウ 参加対象

研究指定等を受ける県立高等学校の生徒（発表及び見学）及び引率教員

参観を希望する県立高等学校、県立芦屋国際中等教育学校の教員

エ 参加形態

(1) 参加者数

〔生徒〕原則、参加校1校あたり10名程度（発表者（+見学のみの参加も可））

〔教員〕参加校の引率者、参観希望の教員

※本校を除き、県内16校の参加があり、50件のポスター発表（発表生徒77名）、教員38名、生徒20名の見学があった。

※本校からは、ポスター発表25名（パネルディスカッションパネリスト1名含む）、見学14名、計39名が参加した。

(2) プレゼンテーション

日本語もしくは英語によるポスター発表（グループまたは個人）

1件につき15分程度（質疑応答含む）

オ プログラム

9:30 受付

10:00 開会行事

主催者挨拶 兵庫県教育委員会事務局高校教育課

幹事校挨拶・講師紹介 兵庫県立兵庫高等学校 校長 福浦潤

10:10 基調講演

講師 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤真久先生

演題「探究×SDGsー“複雑性”に向き合い、生涯を通して運用する探究能力の獲得へー」

11:10 パネルディスカッション

〔テーマ〕「探究の自覚化ー何のための探究かー」

〔座長〕東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授 佐藤真久先生

〔パネリスト〕生徒3名（兵庫高校、柏原高校、佐用高校）

12:00 昼食・休憩

13:00 ポスターセッション

（1クール20分。発表10分、質疑応答5分、ポスター・聴衆者入れ替え5分程度を含む）

第1クール 13:00～13:20

第2クール 13:20～13:40

第3クール 13:40～14:00

第4クール 14:00～14:20

※4クールのうち、2回発表、2回見学

14:40 閉会行事

ポスター発表講評

〔講師〕神戸大学大学教育推進機構 教授 石川慎一郎先生

15:20 全体講評・閉会挨拶 兵庫県教育委員会事務局高校教育課

15:30 終了

カ 発表会の様子



写真 90 基調講演



写真 91 パネルディスカッション

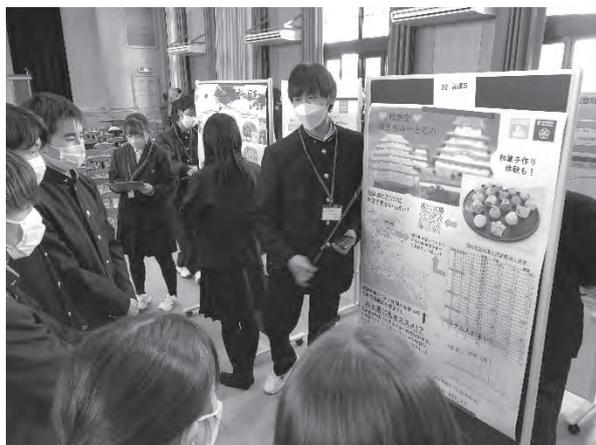


写真 92 ポスター発表

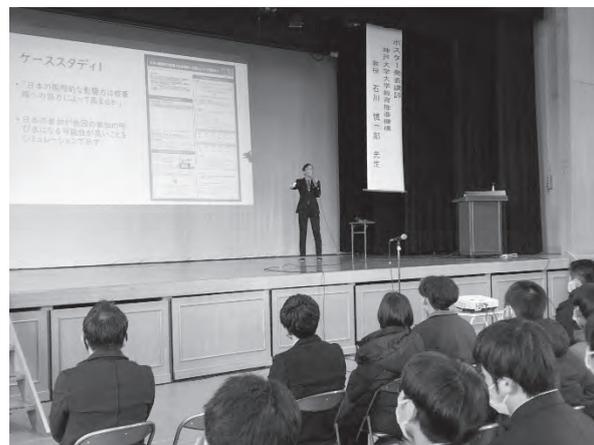


写真 93 ポスター発表講評

キ 参加生徒の感想（一部抜粋）

〔基調講演について〕

- ・探究活動の意義がよく分かり、探究の一つ一つに意識を置き、思考と実践をバランスよく行えるようにしたいと思いました。
- ・とても深いところまで考えさせられて、今後の探究に生かせそうでした。
- ・SDGsにおける問題は全てが繋がっているので一気に解決することは非常に困難だということを知って、私たちはこれからこんな難しいことに立ち向かっていかなければならないんだと感じました。

〔パネルディスカッションについて〕

- ・色々な視点から興味・関心に基づいて発表していて聞いている側も楽しかった。
- ・前で話していた高校生のように、地元の問題や社会の問題を自分ごととして考えられるようにしたいと思いました。
- ・同年代の方が、これほど考えられて探究されているというのを知り、とても刺激を受けました。

〔ポスター発表について〕

- ・興味深い内容で聞いていて驚きや発見があった。
- ・自分が発表しているクールの中で気になる探究テーマがあったけれど、見れなかったのが残念でした。
- ・みんな、自分のしたいことや社会のためのことを思っただけの研究をしていて楽しそうだった。

・どの学校も図やグラフなどを効果的に使っていて、とても分かりやすかったです。何も知らない人にも分かりやすいようなレイアウトになっていたのを見習いたいと思いました。

・感想など記入する時間をもう少し欲しかったです。

【講評について】

・分かりやすい言葉でとてもおもしろかったです。

・自分たちの活動をまとめていると、つい大きな言葉を使いがちになるけど、自分たちの活動に合う言葉でまとめるように心がけたいです。

・最後、時間がなくて短縮されたのがとても残念でした。それほど興味深い内容でした。

・探究の道筋は難しいけれど、その流れの本当の意味がわかった。

【発表会全体について】

・初めて参加させていただきましたが、とても興味深く、参考になりました。

・充実した一日になりました。

・とても充実した時間に感じた。

・このような貴重な発表会に招待していただき、ありがとうございます。様々な探究や意見にふれることができよかったです。これからの探究に生かしたいと思います。

・他の学校の探究活動と自分たちの活動を比べることは、なかなかないので、自分たちの探究活動について考え直す良い機会になりました。

・他校の探究を見て、とても刺激を受けました。大学の先生方の貴重なお話も聞けてためになる時間でした。

(13) 独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立淡路青少年交流の家、淡路島から体験の風をおこそう実行委員会主催「令和4年度SDGsフォーラム」

①日時・場所 令和5年2月18日(日)・S BRICK(洲本市)

③参加生徒 普通科グローバルリサーチ受講生1年生3名、創造科学科1年生2名、創造科学科2年生2名 計7名

④内容

まず、発表で淡路の寺社巡り観光を提案する班がいるため、七福神めぐりの一つである宝生寺を訪ねた。あいにく、本堂が工事中であったが、住職からお話を聞くことができた。

次に、会場にてアイスブレイクのワークショップを、シティズンシップ教育共育企画代表の川中大輔氏のファシリテーションのもと行われた。淡路地区高校の成果発表のあと、本校はゲストとして発表をさせていただいた。発表後、各テーブルで交流会が行われた。

～本校の発表タイトル～

「淡路観光データポスター『七福神でめぐる新しい淡路』」

「# 駅で推し活」

「地方球場に観客を集めるためには」



写真 94 宝生寺見学

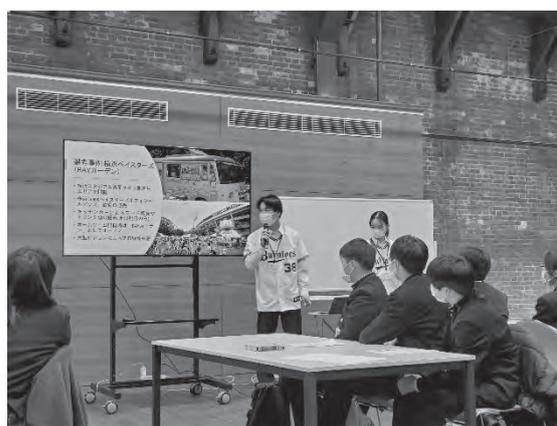


写真 95 発表の様子

(14) 実践研究福井ラウンドテーブル Spring Sessions

①日時・場所 令和5年2月18日(日)・福井大学

②参加生徒 創造科学科1年生11名

③内容

参加生徒は、創造基礎 B で実践した地域活性化の取り組みについてポスターを用いて発表した。全国から集まった人に対する発表を意識して神戸市や長田区について現状や、問題点、解決すべき課題を明確にして発表を行った。多くの方に発表を聞いていただくことができ、自分たちの活動を広く発信することができた。

また、福井県や北海道の高校との交流会を行い、自身の学校の紹介から、ポスター発表を行う際に必要になる質問力を鍛えるワークショップに取り組んだ。その後、教員や大学院生、高校生、中学生と幅広い年代の方とグループをつくり、「学びと教えのあたらしいすがたカタチをみんなでかんがえる」をテーマとして学校内で起こりうる様々な問題について、それを改善していくためにどのようなことができるのかを議論し、その内容を発表した。

～実践発表タイトル～

- ・ながたみらいツリー ～理想の町に見える化しよう～
- ・高校生×ふたば学舎で長田を活性化させよう
- ・子供向けイベントで地域活性化！
- ・高取山を中心とした子どもと自然の触れ合い
- ・#駅で推し活 ～ご当地アイドルと神鉄長田駅周辺の情報発信～
- ・NAGATA Pen Café ～カフェ×ペンで神鉄長田駅をもっと魅力的に～



写真 96 ポスター発表



写真 97 ワークショップの様子

〔生徒の感想〕（一部抜粋）

福井ラウンドテーブルに参加して、まずポスターセッションでは私たち 5-A 班の所に来てくださった方々は全員教師で、今まで「基礎 B」の内容を大人の方だけに見ていただくという機会はなかったのでとても良い機会になった。活動に対してたくさん褒めていただき、純粹に達成感を感じたと同時に、次の活動に向けて自分たちが気づけなかった視点でのアドバイスもいただくことができた。ZONE-E のグループディスカッションでは、「班員全員知らない人」という場に飛び込んでこのような機会は経験したことがなかったので、とても楽しく有意義な時間となった。全く知らない人たちとのディスカッションは新鮮で、自分が考えもしなかった意見が出てきたり、逆に自分の学校の取り組みを話せば相手も驚いてくれたり、意外とお互いの活動に共通するところがあったり、と新たな発見がたくさんあって面白かった。困り感を解決するために自分たちの班でまとめたアイディアは、本当に濃く詰まったものになったので、当日の場で発表という形で共有できたのは嬉しかったが、さらに自分の学校でも共有したいと思った。今回の福井ラウンドテーブルでは周りがほとんど知らない人で年齢も全然違うという環境でディスカッションすることができて本当に有意義な時間となった。またこのような機会があればぜひ参加したい。

（15）「第 13 回高校生鉄人化まつり」

①日時・場所 令和 5 年 3 月 19 日（日）・新長田若松公園鉄人広場

②参加生徒

育英高等学校、神戸野田高等学校、神戸常盤女子高等学校、神戸村野工業高等学校、兵庫県立長田高等学校、兵庫県立夢野台高等学校、本校（上記実行委員 8 名が運営に関わるほか、吹奏楽部（53 名）、弦楽部（20 名）、書道部（6 名）、ギターアンサンブル部（10 名）、書道部（6 名）がパフォーマンスを披露した。）

③内容

本プログラムは、2010 年度に地域の活性化を目的に、長田区が実施した「第 2 回鉄人まちづくりイベント」に応募した創造科学科の前身である総合科学類型 1 期生の提案が最優秀賞を受賞したことから、それ以来、長田区に所在する高校と協働して実施されるようになった。

「Fly to be Reborn ～はばたけ、君の青春へ～」が今回のテーマで、コロナ禍の時代を乗り越え明るく楽しい未来に向かって羽ばたいていきたいという思いを込めた。長田区の高校の部活動によるパフォー

マンスだけでなく、実行委員企画「鉄人決定戦」や各校の展示「輪投げ」、「ストラックアウト」、「VRで長田区体験」など実行委員企画も充実しており、天候にも恵まれ春の陽気も手伝って多くの参加者が訪れ、大盛況となった。このまつりに企画の段階から関わり、ボランティアとして参加してくれた高校生、地域の方に協力いただきながら高校生の力でつくりあげることができた。実行委員は達成感や満足感を強く感じていた。



写真 96 会場の様子



写真 97 本校書道部によるパフォーマンス



写真 98 「VRで長田区体験」

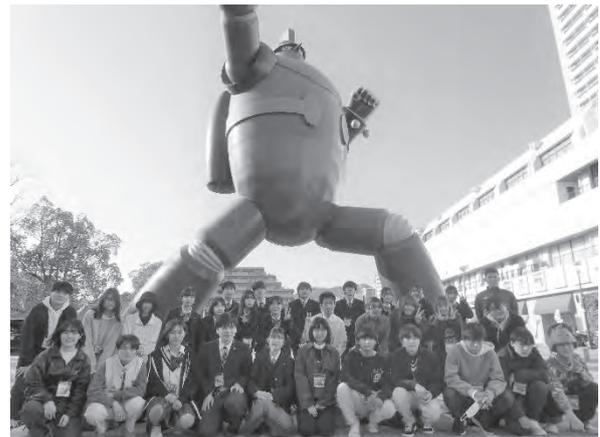


写真 99 実行委員集合写真

4章 探究学習のパフォーマンス評価について

図4の「パフォーマンス評価 Step シート」は、本校の創造科学科における探究学習のパフォーマンス評価のルーブリックで、生徒にはあらかじめ提示し、教員の評価にも使用している。今年度は、普通科「総合的な探究の時間」（ひょうたん）第2学年の第2回中間発表会、第3学年完成発表会にも採用した。

115 ページは、今回検討した次年度第2学年普通科ひょうたんの評価規準表である。

パフォーマンス評価 Step シート

〔社会科学分野〕

I. 課題設定

			Step4
		Step3	社会的に重要かつその解決が有益な課題を、自らの課題として設定することができる。
	Step2	先行研究をふまえて課題を検証し、より適切な課題に絞り込むことができる。	
Step1	研究対象を十分に理解しており、「問い」を明確かつ検証可能なものに設定することができる。		
興味・関心がある分野で「問い」が立てることができる。			

II. 探究活動

			Step4
		Step3	課題に対して、明確な因果関係に基づいて、十分に根拠のある提案を展開することができる。
	Step2	課題に対して、多角的な視点をもって分析し、解決のための方策を筋道立てて考えることができる。	
Step1	課題に対して、先行研究を理解し、可能な限り一次資料にあたって分析できる。		
課題に対して、探究の方法が的確である。			

III. 表現活動

			Step4
		Step3	発表内容を十分に咀嚼し、原稿に頼ることなく、自らの言葉を効果的に用いて説明できる。
	Step2	目的と結論に一貫性があり、相手を納得させるように説明することができる。	
Step1	時間配分をふまえて、研究の起承転結を適切に説明できる。		
発表用スライドを有効に使える。			

〔自然科学分野〕

I. 課題
設定

			Step4
		Step3	自然科学的な視点だけでなく、その成果を社会に役立てることを見据えて、課題を設定することができる。
	Step2	研究を進めながら、さらなる問いを立て、より適切な課題に絞り込むことができる。	
Step1	課題を明確かつ探究可能なものに設定することができる。		
自然科学の現象に主体的に目を向け、課題が発見できている。			

II. 探究
活動

			Step4
		Step3	研究の進め方に一貫性があり、結論を導くうえで科学的な根拠に基づいて、論理的に主張が展開されている。
	Step2	得られたデータを分析するために、適切な方法でデータをまとめ、考察を深められている。	
Step1	課題解決に向けて適切な方法で実験および実習を行い、データを得ることができる。		
課題を解決するための研究の方向性が理解できている。			

III. 表現
活動

			Step4
		Step3	発表内容を十分に咀嚼し、原稿に頼らず、自らの言葉を効果的に用いて説明できている。
	Step2	目的と結論に一貫性があり、聴者が納得できるように説明することができる。	
Step1	時間配分をふまえて、研究の起承転結を適切に説明できている。		
発表用スライドを有効に使用している。			

図4 探究活動におけるパフォーマンス評価

(兵庫県立兵庫高等学校 (2021). 佐藤浩章 (2021) 『高校教員のための探究学習入門—問いから始める7つのステップ—』ナカニシヤ出版. p. 96.を加筆修正)

評価規準表

科目名 総合的な探究の時間（第2学年）

使用教材 岡本尚也（2021）『課題研究メソッド』（2nd Edition）啓林館

1 年間指導計画

時期	単元テーマ	学習概要
1 学期	「SDGs と地域の課題」についての理解の深化 ① 新聞活用 ② 講演会	探究学習における「研究テーマの設定」に向け、新聞を活用すると共に、「SDGs と地域の課題」を架橋する講演会等を通して、テーマの背景にある知識・理解を深める。
2 学期 3 学期	グループによる探究活動 ① 課題の設定 ② 情報の収集 ③ 整理・分析 ④ まとめ・発表	探究活動のガイダンスを踏まえ、 ① グループで、研究テーマを設定・限定する。 ② 研究テーマに即した方法を用いてアンケートやインタビュー、実験等を行う。 ③ 研究内容を整理分析しスライドにまとめる。 ④ スライドを用いた中間発表を行う。

2 単元「探究」活動の目標

「探究」活動の目標			
探究課題	探究活動を通して育成する資質・能力		
	知識及び技能	思考・判断・表現	学びに向かう力
SDGs と地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> SDGs と結びついた地域（兵庫・神戸・長田）の諸課題について理解する。また、探究活動で取り上げるテーマについて、参考資料をもとに深く理解する。 探究方法を学ぶと共に、<u>取り上げた探究テーマに即した方法を見出し活用する。</u> 「SDGs と地域の課題」をテーマに、<u>探究する意義と価値を理解しようとする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs と地域の課題を学ぶ中で、<u>探究テーマを発見・限定し、研究計画を立てる。</u> 探究テーマに適した方法（文献調査、実験やフィールドワーク、アンケート調査など）を検討・実施し、<u>信頼性の高い調査結果を示す。</u> 調査内容を整理する。また、<u>研究目的・研究手法・結果について分析・省察し、必要な改善を図る。</u> 研究結果を、スライド発表のフォーマットにまとめ、論理的・効果的に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究する上で、明確な問題意識と社会的有用性についての自覚をもって臨む。 グループ内のメンバーをはじめ、地域の行政機関、民間団体、大学等高等教育機関等、<u>多様な人々と協働的に課題に取り組む。</u> SDGs と結びついた地域の課題に貢献する意欲を醸成する。

3 単元「探究」活動の評価規準

「単元」の評価規準			
探究課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習態度
SDGs と地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ①知識 <ul style="list-style-type: none"> SDGs と地域の課題について理解することができる。 取り上げた探究テーマの背景について、参考資料をもとに<u>深く理解することができる。</u> ②技能 <ul style="list-style-type: none"> 探究の基本的調査方法について活用することができる。 <u>取り上げた探究テーマに適した調査方法を選択し、活用することができる。</u> ③探究の意義・価値 <ul style="list-style-type: none"> 探究する意義と価値について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> SDGs と地域の課題を学ぶ中で、<u>探究テーマを発見することができる。また、テーマを吟味・限定し、研究計画を立てることができる。</u> ②情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> 探究テーマに適した方法（文献調査、実験やフィールドワーク、アンケート調査など）を発見することができる。また、調査方法を検討・実施し、<u>信頼性の高い調査結果を示すことができる。</u> ③整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> 調査内容を整理することができる。また、<u>研究目的・研究手法・結果について分析・省察することができる。必要な改善を図ることができる。</u> ④まとめ・発表 <ul style="list-style-type: none"> 研究結果を、スライド発表のフォーマットにまとめ、論理的・効果的に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己理解・他者理解 <ul style="list-style-type: none"> 探究する上で、明確な問題意識を持つことができる。研究の社会的有用性について自覚すると共に研究倫理を遵守することができる。 ②主体性・協働性 <ul style="list-style-type: none"> 活動に主体的に取り組むことができる。また、グループ内のメンバーをはじめ、地域の行政機関、民間団体、大学等高等教育機関等、<u>多様な人々と協働的に課題に取り組むことができる。</u> ③将来展望・社会参画 <ul style="list-style-type: none"> <u>SDGs と結びついた地域の課題に貢献する意欲を醸成することができる。</u>

【評価の対象】

- (1) 生徒の研究計画
- (2) 各活動場面における振り返りレポート
- (3) 中間発表のスライド、発表、質疑応答
- (4) 生徒の自己評価および相互評価
- (5) 大学教員等識者講評におけるコメント

4 評価基準と評定

(1) 項目評価と観点別評価

探究活動 テーマ ()		A	B	C
知識・技能	①知識	・SDGs と地域の課題について <u>深く理解</u> することができる。 ・取り上げた探究テーマの背景について <u>深く理解</u> することができる。	・SDGs と地域の課題について <u>理解</u> することができる。 ・取り上げた探究テーマの背景について <u>理解</u> することができる。	・SDGs や地域の課題について理解することができる。 ・取り上げた探究テーマの背景についての理解に課題が残る。
	②技能	・探究の基本的調査方法について <u>活用</u> することができる。 ・取り上げた探究テーマに適した調査方法を <u>選択し、活用</u> することができる。	・探究の基本的調査方法について <u>理解</u> することができる。 ・取り上げた探究テーマに適した調査方法を <u>選択</u> することができる。	・探究の基本的調査方法の <u>一部</u> について理解することができる。 ・取り上げた探究テーマに適した調査方法の選択に課題が残る。
	③意義・価値	・探究する意義と価値について <u>深く理解</u> することができる。	・探究する意義と価値について <u>理解</u> することができる。	・探究する意義と価値の理解に課題が残る。
思考・判断・表現	①課題設定	・SDG と地域の課題を学ぶ中で、 <u>適確な探究テーマを発見</u> することができる。 ・テーマを吟味・限定し、研究計画を立てることができる。	・SDG と地域の課題を学ぶ中で、 <u>探究テーマを発見</u> することができる。 ・テーマを吟味し、研究計画を立てることができる。	・SDG と地域の課題を学ぶ中で、 <u>探究テーマを発見</u> できず、 <u>指導者からテーマを与えられる</u> 。 ・研究計画に課題が残る。
	②情報収集	・探究テーマに適した方法(文献調査、実験やフィールドワーク、アンケート調査など)を <u>適確に発見</u> することができる。 ・調査方法を駆使し、 <u>信頼性の高い調査結果</u> を示すことができる。	・探究テーマに適した方法(文献調査、実験やフィールドワーク、アンケート調査など)を <u>発見</u> することができる。 ・調査方法を駆使し、 <u>調査結果</u> を示すことができる。	・探究方法(文献調査、実験やフィールドワーク、アンケート調査など)の発見に課題が残る。 ・調査方法に課題があり、調査結果が十分に示せない。
	③整理・分析	・調査内容を整理することができる。 ・研究目的・研究手法・結果について <u>分析・省察し、必要な改善</u> を図ることができる。	・調査内容を整理することができる。 ・研究目的・研究手法・結果について <u>分析・省察</u> することができる。	・調査内容をうまく整理できない。 ・研究目的・研究手法・結果についての <u>分析・省察</u> に課題が残る。
	④まとめ・発表	・研究結果を、スライド発表のフォーマットに <u>適確に</u> まとめることができる。 ・スライドを使って <u>論理的・効果的に発表</u> することができる。	・研究結果を、スライド発表のフォーマットにまとめることができる。 ・スライドを使って発表することができる。	・研究結果を、スライド発表のフォーマットにまとめるきれない。 ・スライドを使って発表することができない。
主体的な学習態度	①自己理解・他者理解	・探究する上で、 <u>明確な問題意識</u> を持つことができる。 ・研究テーマの社会的有用性について <u>自覚</u> すると共に <u>研究倫理</u> についても <u>遵守</u> することができる。	・探究する上で、 <u>問題意識</u> を持つことができる。 ・研究テーマの社会的有用性についての <u>自覚</u> を持つことができる。	・探究する上で、 <u>問題意識</u> が希薄である。 ・研究テーマの社会的有用性について <u>理解</u> できない。
	②主体性・協働性	主体的に課題研究に取り組むことができる。また、 <u>グループ内のメンバー</u> だけでなく <u>校外の多様な他者</u> と <u>協働的に</u> 取り組むことができる。	主体的に課題研究取り組むことができる。また、 <u>グループ内のメンバー</u> と <u>協働的に</u> 取り組むことができる。	受け身形で、課題研究取り組む。また、 <u>他者と協働的に</u> 取り組むことができない。
	③将来展望・社会参画	SDGs と結びついた地域の課題に <u>貢献する意欲</u> を醸成することができる。	SDGs と結びついた地域の課題に <u>関心</u> を持つことができる。	SDGs と結びついた地域の課題に <u>関心</u> を持つことができない。

関連資料 1) 令和4年度 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(グローバル型)
運営指導委員会(記録)

■ 令和4年度 運営指導委員

原井 英一(財務省近畿財務局頭事務所 所長)

水山 光春(京都橘大学発達教育学部 教授)(委員長)

廣岡 徹(兵庫教育大学教職大学院 元教授)(副委員長)

小室 貴史(株式会社神戸ポートピアホテル 常勤監査役)

藤岡 健(神戸市企画調整局つなぐラボ つなぐ担当部長)

岡田 徹(公益財団法人ひょうご産業活性化センター監事)

宮下 巨樹(兵庫県教育委員会事務局高校教育課高校教育推進班(高等学校教育担当) 主任指導主事)

■ 第1回 運営指導委員会(記録)

1 日時 令和4年7月19日(火) 11:20~12:30

2 場所 本校同窓会館(ゆ〜かり館)

3 参加者

[運営指導委員]

原井 英一(財務省近畿財務局頭事務所 所長)

藤岡 健(神戸市企画調整局つなぐラボ つなぐ担当部長)

廣岡 徹(兵庫教育大学教職大学院 元教授)(副委員長)

岡田 徹(公益財団法人ひょうご産業活性化センター監事)

宮下 巨樹(兵庫県教育委員会事務局高校教育課高校教育推進班高等学校教育担当 主任指導主事)

[本校]

校長 福浦 潤

教頭 上出 正彦

特色企画部長(グローバル型研究開発主任) 教諭 岩見 理華

創造科学科推進部長 教諭 窪田 勉

特色企画部副部長(STEAM教育研究開発主任) 教諭 波部 義広

特色企画部 講師 三好 佑季

I 報告事項

1 令和3年度の取り組みの成果と課題について〔岩見教諭〕

2 令和4年度研究計画〔岩見教諭〕

3 特色ある取り組みについて

(1) 普通科「総合的な探究の時間」(ひょうたん)の取り組みについて〔岩見教諭〕

(2) 普通科「グローバルリサーチコース」各学年の取り組み〔窪田教諭〕

(3) 創造科学科の取り組みについて〔窪田教諭〕

■ 質疑応答・意見交換(○運営指導委員 ●学校側)

○普通科グローバルリサーチコース(以下、GR)の受講生徒数の減少傾向についてなぜ減少しているのか。学科とGRの間に意識の差はあるのか。

●今の3年生は31名いるが、2年生は17名、1年生は15名と減少している。一番大きい理由は、コロ

ナ禍の影響でいろんな海外研修が中止になったことである。同時に「総合的な探究の時間」(ひょうたん)が普通科でも始まり、探究学習は普通科でも授業時間内でできると感じる生徒が多かったと考えられる。○課題を発見し解決していくことがとにかく社会に出てから大事であり、ひょうたんはその下地を作る取り組みであると感じられる。一方、生徒や保護者が「社会に出て役立つ授業」という認識を持ってもらえるのか、探究活動に関する情報提供やPRをされているのか。

●本校は「受験」という意識が(生徒・保護者の中で)すごく強い。共通テストに変わって、読解力、自分で問を立てる力、さらには現代社会の様々な諸事情を教科の見方で考える、ということが問われるようになった。また、推薦入試などでは、探究の学びが、受験・大学選択にも直結し、進路実現の一環として探究の学びが位置付けられていることを、探究活動のスタートラインから伝えている。しかし、中学生に向けては、まだまだアピール不足であることが課題であると感じる。

●配布資料の3年生の完成発表会後のアンケート結果を見ていただきたい。「意欲的に取り組めた」「知識が深まった」という項目はほとんどの生徒が肯定的だが、「教科の学習に役立った」に対しては否定的な回答をした生徒が5割を超える。「卒業後の進路に役立った」についても、7割くらいの生徒が「役立ったとは思わない」と回答しており、我々の思いとは少し離れている、生徒にとっては、「確かに役には立っているのだろう、しかし、大学入試については直結しない」という意識がまだあると思われる。これは我々教員が、しっかりと生徒に伝えきれていないことが原因である。探究活動の成果を使って高校時代にやったことを評価してくれるようなシステムがもう少しできていればと感じている。

○AO入試の合格人数はどのくらいの割合か。

●昨年度の合格者は合わせて10人未満で、受験者は20人前後。数としてはそんなに多くない。

○AOの中でも推薦型では、こういった探究活動は有効であるかなと思っている。これから大学入試が変わっていくと思うが、大学の変化などに関する情報はキャッチしているのか。

●本校は進路指導部がすべてキャッチして、指導体制も整えている。本校の生徒は国公立大学志望だが、国公立大学のAO入試では共通テストが必要になる。AO入試で学力も求められるとなると、探究活動などの準備と受験勉強を両立させることが実は現在の大きな課題となっており、本校でも一般入試で受験する生徒が多いのが現状である。

○研究テーマを見ていると、いろいろなテーマのくくりができる。その共通したくくりの部分、もう少し生徒たちが意識してもいいのかなと思う。また、林先生と石川先生のお話(発表会後の講評)を聞いて、生徒たちに話す内容をわかりやすくまとめていただいていると感じたが、あの話は、指導する先生方も聞いて、生徒が相談に来た時にそういう前提で活動に関わっていくといいのかなと感じた。行政とか施策に関わるテーマが結構多いが、その発展形でもう少し、例えば神戸市なら神戸市の政策・施策に係るような発表があってもいいかなと思う。「明石市との比較に基づく神戸市子育て推進案」とか「神戸市における地区間の整備格差」など、結構レベルの高い政策に踏み込んだ提案もあり、一つの方向性として素晴らしい。

II 協議事項(○運営指導委員 ●学校側)

- 1 教科横断的な探究学習の推進について
- 2 本事業終了後の取り組みについて

○文科省の補助事業で行っているということで、それが3年間で、今年度で終わる。来年からはどんな風に取り組んでいくのか、GRはカリキュラム上で消えるのか。

●カリキュラム自体は消えることはない。「総合的な探究の時間」は今年度から全国の高校で始まっており、教科に関しても様々な形で「探究」が出てくるので、「生徒が主体的に深く学んで考える」という活

動が増える。グローバル型はモデル事業なので本校の取り組みを全国の高校に還元せよという使命があり、資金の提供がないからといって変わるわけではない。

●カリキュラム自体は文科省の決まっているもので、中身をどうするかということになる。確かに補助金がなくなった後、講師を呼んだり、生徒が外で活動したりという内容をどうするか、ということは非常に大きな問題である。県とも相談しながら、あるいはPTA・同窓会の協力を得ながら、有効な部分について整理し実践していく。その際、STEAMとグローバルと創造科学科の活動を、というのは難しい。兵庫高校はどこを目指していくべきなのだろうか、ということを経験者・生徒たちと一緒に考えながら整理をしていこうという一年にしていきたい。

○今までのコース維持にあたって、文科省の施策をうまく取り込みながら、継続的な取り組みをしている印象だ。これに続く文科省の取り組みはないのか。

●SSHはあるが兵庫高校の取り組みとは少し違うのではないかと思う。

Ⅲ 指導助言（宮下主任指導主事）

朝から発表を見て、生徒の頑張りを非常に心強く感じた。今年でいったん指定事業が終わり、来年からは自走していかなくてはいけないという中で、三本の柱でやっている探究・GR・創造科学科の取り組みを、うまく取り込んで、持続性のあるようにやっていくのが大きな課題と考える。報告書の中の組織図で校内体制を見たが、非常に組織立ってしているかなと思った。ただ、この組織図の中で教科がどのように関係しているのかが課題だろうと思う。

今日発表を見ていて一つ気になったのは、参考文献がネットの情報だけというのが多かったので、そういう意味では、本を1冊でも読ませてやっていく取り組みの中で課題を設定していくと、実は国公立二次試験でも活きるよね、共通テストでもこのようなスキルを身に付けているとこのような問題が解けるよね、など指導に繋げていければいいのかなと思う。テーマ設定の段階で、徹底的にそのような研究を教科のほうでしていただくと、教科のほうにも生きてくるのかなと思う。

それから、評価の中で最も大事なことと言われていることは何かというと、（探究を通して）目指す生徒像を把握し、それを全職員で共有しておく、ということだが、この資料を見ると、生徒に習得させたい力、つまり何ができるようになったのか、新しい学習指導要領で言われている「何ができるようになったのか（目標）」と書かれている。そのためにどういう力を身に付けなければならないのか、じゃあ何ができるいればそれが身に付いたといえるのか、というふりかえり方をしながら、ルーブリックを作成し、評価をしていくことが大事かと思う。

最後に、自走していくという話であるが、文理融合型の探究活動を先進的に取り組んでいるということで、その中心的な役割を兵庫高校に担ってほしいというのが県教委の思いである。去年も「HYOGO×WKCフォーラム」では幹事校として、さまざまな分野で中心的な役割を果たしてもらった。他の参加校にとって何が良かったかということ、生徒たちが発表する機会を得たことだけではなくて、兵庫高校のやり方をずいぶん学べたことが参考になったことである。継続的に、成果を全県に波及させるような取り組みを深めてほしい。

第2回 運営指導委員会（記録）

1 日時 令和5年2月6日（月） 15:05～16:00

2 場所 本校同窓会館（ゆ〜かり館）

3 参加者

〔運営指導委員〕

原井 英一（財務省近畿財務局頭事務所 所長）

小室 貴史（株式会社神戸ポートピアホテル 常勤監査役）

水山 光春（京都橘大学発達教育学部 教授）（委員長）

廣岡 徹（兵庫教育大学教職大学院 元教授）（副委員長）

竹原氏（神戸市企画調整局参画推進課）※藤岡 健氏代理

宮下 巨樹（兵庫県教育委員会事務局高校教育課高校教育推進班高等学校教育担当 主任指導主事

〔本校〕

校長 福浦 潤

教頭 上出 正彦

情報教育部長 教諭 岩崎 公彦

創造科学科推進部長 教諭 窪田 勉

創造科学科推進副部長 教諭 志賀 敏記

特色企画部長（グローバル型研究開発主任） 教諭 岩見 理華

特色企画部副部長（STEAM教育研究開発主任） 教諭 波部 義広

特色企画部 STEAM教育推進係 教諭 望月 翔平

特色企画部 臨時講師 三好 佑季

特色企画部 実習助手 松本 太郎

創造科学科推進部 実習助手 来田 三千博

I 報告事項

1 令和4年度2学期以降の取り組みについて〔岩見教諭〕

■質疑応答・意見交換（○運営指導委員 ●学校側）

○中間発表会の STEAM の発表を拝見したが、プレゼンのパフォーマンスが平坦になってしまっていて、プレゼンのメリットが生かしくないと感じた。コンソーシアムについては、特色推進本部がコーディネーターされたと思うが、苦勞されたと思う。

○商店街でいろいろな方に話を聞いたという研究もあったが、課題をまず見つけることも当然重要だが、次のステップは議論する、コミュニケーション力をつけていくことがすごく重要だ。生徒アンケートの中で、「教科の学習に役立った」「卒業後の進路を考えるうえで役立った」などの項目で、否定的評価の比率が高いのは、それはそうだと思う。直接的ではない。全体的に、着眼点をもって、それが議論の中で変化していきながら形を整えていることが見受けられて、いい形を見させていただいたと感じる。

○発表に関する基本的なこと、例えば役割分担とかはきっちりしている。しかし、よく聞き取りにくいということがあった。ただ、質問も的を射た質問の仕方をしているので、それなりには発表を聞いていると感心した。我々の会社でも毎週1回朝プレゼン会議をさせるが、プレゼン能力というのは大人になっても個人差がとてもある。若いうちから、「何を伝えたいのか」をもう少し鍛え、練習することを早い段階から取り組んでいると、社会に出たときに、自分の能力の向上に役立つだろうと感じた。

○これまでは創造科学科の生徒の取り組みを見る機会が多かったので、「地域密着型」というか、おもしろい取り組みがいろいろあったのだが、普通科の探究はそれとは違う取り組みなので、地域との協働という面から言うと、一歩引いた調べ方になっている。この研究方法が、兵庫高校が目指しているグローバル型の事業とどうフィットしていくのかというところが気になる。発表そのものは面白かった。特に、STEAMの研究班の中に、他の班よりも一歩先を行くレベルの高さも感じた。今後探究学習を深めていくうえで出る問題として、アンケート調査などを生徒がとることが多いので、やはり数字が関係してくると統計学・推計学との兼ね合いが出てくる。今後どういう風に教えていくのかが気になる。技術的なこと・知識をある程度入れないと科学的な考察にはならない。そのあたりの兼ね合いの難しさを、私自身、大学の卒論を見ていると感じている。まずは問題発見力が一番重要であるので、そういうものを身に付けるうえで、非常に重要なことをやっていると感じた。

●データサイエンスだが、来年度より普通科の第2学年で1単位の授業にする予定。基本的には情報Iと数学とで授業を連携させながら、統計に関して、総合的な探究の時間で使えるような、統計データの処理やデータの見方などを実施していく予定である。基本的にはExcelを使って、数字を貼り付けるとグラフや統計ができ、こういうことが読み取れるよね、というような少しブラックボックス的な扱いにはなってくるが、発表に使えるようなデータの処理という形で授業をしていく予定である。

○検定とかは授業で扱う予定か。

●検定の授業も実施する。数学Bのほうで来年度から「検定」の内容も入っているし、あとはデータサイエンスの中で検定も実施していく。

○検定についてはよくわかったが、それぞれ今はGoogleとかMicrosoftのTeamsなどを使うとアンケートとかあつという間に取れて、データになってという時代になっている。そう考えると、逆に研究倫理というか、そういうのが重要になってくると思うが、そのあたりの指導はどのようにしているのか。

●「研究倫理」については、本校は啓林館の「課題探究メソッド」をテキストとして昨年度から全員使わせている。その中に「研究倫理」という単元があり、人を対象とした研究のルールは授業で教えている。Google Formを使うと非常にデータがたくさん集まって、グラフまで描いてくれるのだが、先行研究もよく調べずに、いきなりアンケートをとろうとする班が続出して、外部からも「兵庫高校の探究は何がやりたいのか」というお叱りを受けることがあった。安易にアンケートに流れてしまう班が少し今増えている。研究倫理のところでは、アンケートの質問紙の作り方、例えば個人名がわからないようにするとか、研究終了後は破棄するとか、型を示しながら、担当教員がチェックして、OKをもらったら質問紙を作成し、協力してもらって流れにしている。神戸大学の林創先生から、アンケートや実験をするときの注意点についてオンラインで講義をしてもらって、分析方法についても講義をいただいている。今後はデータサイエンスの授業が進んだら、分析手法が高度化すると思っている。

●創造科学科の1年生で、必修科目として「理数探究」という科目が入った。基本的には創造科学科1年生を対象に、自然科学系の探究活動を行っている。昨年度までは、「創造基礎B」の「課題研究」という科目で、データの取り扱いなどを指導する時間がないまま、「はい、発表しなさい」という形になってしまっていたが、今年度から「理数探究」に変わって、1年間かけた活動となり、4月、5月の間は実際に数学科の教員が標準偏差とか理論系の内容を指導した。身近なテーマを選んで実験をしながら仮説の立て方や、考察の仕方というのを指導できる時間が取れたと思う。後半も、ポスターを作成し、発表する際のポイントなどを伝えられる時間が取れた。一昨日、神戸高校で、神戸高校総合理学科と、明石北高校の自然科学科と合同で研究発表会を行ったが、他の2校と比べても遜色ない、しっかり考察ができて、データの整理もされて、という発表ができ、成果が見られた。

II 協議事項

1 コンソーシアムを活用した今後の取り組みについて〔校長より〕

副委員長からもありました過去のふりかえりというのですが、創造科学科・未来創造コースは40人の課題探究がもともとからあって、町にフィールドワークに行ったり、結果的にそれを実践する場・披露する場としてイベントに結びつけたりして、中身のある活動を続けてきている。今回の新課程が入って、「総合的な探究の時間」ということで、普通科の生徒にも広げていく中で、非常に身近な話題が多かったという風に私も感じた。発展途上ではあるが、「普通科の生徒には研究の仕方を」ということで、ご指摘があったが、探究活動というのは高校・大学で終わるわけではなく、プレゼンも社会に出ていろいろ自分の仕事のことについて説明することもある。兵庫高校の生徒は自分で活動するということが代々得意だと思うので、そのあたりの訓練というところで、それを磨いていければと思う。

もう一方で、アンケートにもあるように、教科の活動と結びつかないということで、この時間が、無駄のように思っている生徒が3割~4割くらいいるのは、進学校の宿命というか、保護者の方からの思いもありますので、そのジレンマとしては校長としてすごく感じている。探究活動の効果や成果は認めつつ、どのように大学の進学にも結び付けていけたらいいのか、教員の意識改革の必要もあると思っている。新しい活動、データサイエンスなどもあるが、それが彼らの進路実現に結びついていって、将来どんな役に立つのかをていねいに説明しながら、中身の濃いものにしていかなければと思っている。もう一つ課題として考えているのが、組織が縦割りというか、行政組織のように、3部門分かれていて各部長が引っ張っている形になっているので、もう少し有機的に繋げていけたらと思っている。本校は職員50人いるが、学校全体のモチベーションというか、教員の意識も、探究活動を生徒と一緒にわくわくしていこうという雰囲気を作っていってもらえたら、持続可能な取り組みになると感じている。

喫緊の課題だが、この取り組みが3年目ということで、STEAM教育の事業もグローバルも本年度で終了する。この活動を維持していくのに率直なところ（国と県からの）補助がなくなる。本校は、「武陽会」という同窓会組織が非常に学校、後輩のために協力を惜しまない、ということよくしていただいているが、甘えてばかりではいけない。創造科学科ができて、今年の入学生が8年目であるが、8期生ということで、改編してから10年になる。学科の在り方についても県教委と相談しながら、今後10年、20年先の新しい教育に対応できるシステムが導入できないかということで、アイディア等をお願いしたい。

III 指導助言〔宮下主任指導主事〕

今年度で3年間の指定が終わるので、全体的なまとめについて述べる。昨日も発表会を開催していただき兵庫高校の先生方・生徒さんにがんばってもらった。何より生徒が闊達にきちっと動いているところは兵庫高校らしさがあると思う。その闊達な生徒をどっちの方向に向かわせていくのが今後の大きい課題なのではないか。一定の区切りの年度になっている一方で、今後どの方向に向いてやっていくのが校内でも議論されているところと思う。

地域との協働やSTEAMの指定がいったん終わるが、今までの研究成果を生かした方向で、ある程度進んでいくことになっていくかと思う。今、県教委は「兵庫県立高等学校教育改革第3次実施計画」というのを進めていて、これは全県立高校対象の高等学校教育改革で、もちろん兵庫高校も変わっていきってもらわなければならないが、その際3年間やって来られた研究成果というのは、やはり生かしてほしいと思っている。昨日の17校参加の生徒・教員が参加した発表会（兵庫県教育委員会主催「令和4年度高校生SDGs探究発表会」）でも兵庫高校の取り組みを見て、多くの学校は刺激を受けている。県内の研究活動・探究学習をリードするような学校であり続けてもらいたい。

もう一つ言うと、例えば「STEAMっぽい勉強ができるんです」「地域協働の勉強が継続してできるんです」「だからここに行きたい」という選び方ができるような学校であってほしいと思う。地域との協働

の在り方も考えていかなければいけないが、フィールドワークをやっていることが兵庫高校の地域協働の非常に大きい特色だし、実は地域を活用しているということについても、他校との取り組みとは違うところかと思う。地域をしっかり活用できている。今後も、ぜひ地域を活用しながら、地域が活性化するような取り組みを続けてほしい。

今までの学習成果・研究取組成果を生かした方向を向きながら、生徒は自由闊達にするので、そこにどう先生方が、ある種コントロールしていくのか、どう関わっていくのか、ということが非常に大事になってくると思う。先ほど「アンケートに安易に流れる、それにストップかける」という話もあったが、そういう小さいところから始まって、校長の指摘にあったように、全校体制で先生たちが同じ方向を目指して生徒たちに関わっていただくということも含めて今後も研究してほしいと思う。

いずれにしても、先生方 3 年間きちっとやり遂げてもらったことで、生徒たちが変わってきていることを県教委から見ていて実感しているので、私どもの財政的な支援がどこまでできるかは少し不安なところはあるが、知恵を絞りながら一緒に走っていくという姿勢は変わらずにやってもらいたいと思っている。

関連資料 2)

令和4年度実施教育課程一覧

(普通科)

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
1 学年 77 回生	科目	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	化学基礎	物理基礎	生物基礎	体育	保健	選音美書Ⅰ	英語COMI	論理表現Ⅰ	家庭基礎	※グローバルR	※総合的な探究Ⅰ																			合計
	単位	2	3	2	2	2	1	2	1	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	34	
2 学年 76 回生	理系 科目	現代文B	古典B	世界史A	地理B	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学B	化学	選生物	選物理	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	情報の科学	総合的な探究Ⅰ	LHR																				合計
	単位	2	3	2	2	3	1	2	2	3	3	2	1	3	2	2	1	1	3	2	2	2	1	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	32	
2 学年 76 回生	文系 科目	現代文B	古典B	世界史A	地理A	選日本史A	選数学Ⅱ	選数学B	理科探究Ⅰ	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	情報の科学	総合的な探究Ⅰ	LHR																						合計
	単位	2	3	3	3	3	3	2	2	2	1	5	2	2	2	1	1	3	2	2	2	2	1	5	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	32	
3 学年 75 回生	理系 科目	現代文B	古典B	地理B	選数学Ⅲ 数学錬成S	選数学Ⅲ 数学錬成S	選数学Ⅲ 数学錬成S	選数学Ⅲ 数学錬成S	化学	選生物	選物理	体育	保健	英語III コミュニケーション	英語表現II	総合的な探究Ⅰ	LHR																					合計
	単位	2	2	3	4	4	3	3	4	4	4	2	2	4	2	1	1	3	4	4	4	2	2	2	4	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	32		
3 学年 75 回生	文系 科目	現代文B	古典B	地理B	選日本史B	選世界史B	選倫理	選政治	選数学錬成Ⅰ	選数学錬成Ⅱ	理科探究Ⅱ	体育	保健	英語III コミュニケーション	英語表現II	総合的な探究Ⅰ	LHR																					合計
	単位	2	3	3	4	4	2	3	2	3	3	2	2	4	2	2	1	3	4	4	4	2	2	2	4	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	32		

備考 自由選択科目として、「グローバルリサーチ(グローバルR)」を設置します
「グローバルリサーチ」非選択者の単位数合計は表の合計よりも1少なくなります
始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了

(創造科学科)

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
1 学年 77 回生	科目	現代の国語	言語文化	歴史総合	体育	保健	選音美書Ⅰ	英語COMI	論理表現Ⅰ	情報Ⅰ	理数数学Ⅰ	理数化学	理数物理	理数生物	理数数学Ⅱ	理数特論	理数化学	理数物理	理数生物	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	英語II コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	※創造応用IS	※総合的な探究Ⅰ									合計	
	単位	2	2	2	2	1	2	3	2	2	5	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	34	
2 学年 76 回生	理系 科目	現代文B	古典B	世界史A	地理B	理数数学Ⅱ	理数特論	理数化学	理数物理	理数生物	選理数生物	選理数物理	英語II コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	※創造応用IS	LHR																					合計
	単位	2	2	2	2	4	2	2	2	2	2	1	3	2	2	3	2	2	2	1	2	1	3	2	2	2	2	2	2	2	3	1	1	1	1	33		
2 学年 76 回生	文系 科目	現代文B	古典B	世界史A	地理A	選日本史A	選世界史A	選倫理	選政治	選数学Ⅱ	選数学特論	選理数化学	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	英語II コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	※創造応用IS	LHR									合計	
	単位	2	3	2	3	3	3	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	4	2	2	2	3	2	2	3	1	1	1	1	33		
3 学年 75 回生	理系 科目	現代文B	古典B	地理B	理数数学Ⅱ	理数特論	理数化学	理数物理	理数生物	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	英語III コミュニケーション	英語表現II	創造応用IS	LHR										合計	
	単位	2	2	3	4	3	4	4	5	2	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	32			
3 学年 75 回生	文系 科目	現代文B	古典B	地理B	選日本史B	選世界史B	選倫理	選政治	選数学Ⅱ	選数学特論	選理数化学	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	選理数生物	選理数物理	英語III コミュニケーション	英語表現II	創造応用IS	LHR											合計	
	単位	2	3	3	4	4	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	32		

備考 *について:前期(9月まで)創造基礎(B)1時間+※1時間 後期(10月から)課題研究1時間+※1時間で実施します
始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了

令和4年度入学生(77回生)教育課程一覽

普通科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

DS:データサイエンス

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
1 学年	科目	現代の国語	言語文化	歴史総合	公共	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学A	化学基礎	物理基礎	生物基礎	体育	保健	選音美書Ⅰ	英語COMⅠ	論理表現Ⅰ	家庭基礎	※グローバル	※総合的な探究																			
	単位	2	3	2	2	2	1	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
		合計																																				
		34																																				

理系	2 学年	科目	論理国語	古典探究	地理総合	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学B	数学C	化学基礎	化学	生物	物理	体育	保健	英語COMⅡ	論理表現Ⅱ	情報Ⅰ	DS概論	総合的な探究	LHR																			
	単位	2	2	2	3	1	2	1	1	1	2	3	2	2	1	3	2	2	1	1	1	1	3	4	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
3 学年	科目	論理国語	古典探究	地理探究	数学錬成S	数学Ⅲ	数学研究S	化学	生物	物理	体育	保健	英語COMⅢ	論理表現Ⅲ	総合的な探究	LHR																								
	単位	2	2	3	3	3	3	4	4	4	3	3	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	4	4	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		合計																																						
		32																																						

文系	2 学年	科目	論理国語	文学国語	古典探究	地理総合	日史探究	世史探究	数学Ⅱ	数学B	数学C	化学基礎	選物生探究	体育	保健	英語COMⅡ	論理表現Ⅱ	情報Ⅰ	DS概論	総合的な探究	LHR																				
	単位	2	2	2	2	3	3	3	3	1	1	1	1	2	1	4	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
3 学年	科目	論理国語	文学国語	古典探究	地理探究	日史探究	世史探究	公民探究	地理探究	数錬Ⅰ	数錬Ⅱ	理科探究	体育	保健	英語COMⅢ	論理表現Ⅲ	総合的な探究	LHR																							
	単位	2	1	2	4	4	4	4	3	2	2	3	3	3	3	4	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		合計																																							
		32																																							

備考 自由選択科目として、「グローバルリサーチ」を設置します
 「グローバルリサーチ」非選択者の単位数合計は表の合計よりも1少なくなります
 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

創造科学科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

DS:データサイエンス

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35				
1 学年	科目	現代の国語	言語文化	歴史総合	体育	保健	選音美書Ⅰ	英語COMⅠ	論理表現Ⅰ	情報Ⅰ	理数数学Ⅰ	理数化学	理数物理	理数生物	理数探究	※創造基礎	LHR	※総合的な探究																						
	単位	2	2	2	2	1	2	3	2	2	5	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
		合計																																						
		34																																						

創造科学科・理	2 学年	科目	論理国語	古典探究	地理総合	体育	保健	英語COMⅡ	論理表現Ⅱ	家庭基礎	理数数Ⅱ	理数特論	理数化学	選理数物・生	選理数生・物	※創造応用Ⅰ	DS特論	LHR																								
	単位	2	2	2	2	1	3	2	2	2	4	2	3	2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
3 学年	科目	論理国語	古典探究	地理探究	体育	英語COMⅢ	論理表現Ⅲ	理数数Ⅱ	理数特論	理数化学	理数生物	理数物理	創造応用Ⅱ	LHR																												
	単位	2	2	3	3	3	2	3	3	3	4	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		合計																																								
		33																																								

創造科学科・文	2 学年	科目	論理国語	古典探究	地理総合	選日史探究	選世史探究	体育	保健	英語COMⅡ	論理表現Ⅱ	家庭基礎	理数数Ⅱ	理数特論	理数化学	理数物理Ⅰ	理数生物Ⅰ	※創造応用Ⅰ	DS特論	LHR																					
	単位	2	2	2	3	2	1	4	2	2	2	2	3	2	2	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3 学年	科目	論理国語	古典探究	国語研究	選日史探究	選世史探究	公民探究	地理探究	理数化学	選理数物・生	体育	英語COMⅢ	論理表現Ⅲ	理数数Ⅱ	理数特論	理数生物	創造応用Ⅱ	LHR																							
	単位	2	2	1	4	4	4	2	2	1	3	4	2	3	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		合計																																							
		33																																							

備考 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 令和3年度以前に開講していた学校設定科目「RRE」の内容は「創造基礎」および「理数探究」の中で実施します
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

令和3年度入学生(76回生)教育課程一覽

普通科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1 学年	科目	国語総合					現代社会	数学 I			数学 II	数学 A	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	保健	書道 I	音楽 I	英語 I	コミュニケーション	英語表現 I	家庭基礎	LHR	※総合的な探究	※グローバル										
	単位	5					2	2			1	2	2	2	2	2	2	2	3	1	2	3	2	2	1	1	1									
		合計																																		
		34																																		

2 学年	科目	現代文 B	古典 B	世界史 A	選 地理史 A			数学 II	数学 B	理科探究 I	体育	保健	英語 II	コミュニケーション	英語表現 II	情報の科学	総合的な探究	LHR																		
	単位	2	3	3	3			3	2	2	2	1	5			2	2	1																		
3 学年	科目	現代文 B	古典 B	地理史 B	世界史 B	選 倫理		政治経済	数学錬成 I	数学錬成 II	理科探究 II	体育	英語 III	コミュニケーション	英語表現 II	総合的な探究	LHR																			
	単位	2	3	4		2		3	2	3	3	2	4		2	1																				
		合計																																		
		32																																		

2 学年	科目	現代文 B	古典 B	世界史 A	地理 B	数学 II	数学 III	数学 B	化学	選 生物物理	体育	保健	英語 II	コミュニケーション	英語表現 II	情報の科学	総合的な探究	LHR																		
	単位	2	3	2	2	3	1	2	2	3	2	1	3		2	2	1																			
3 学年	科目	現代文 B	古典 B	地理 B	選 数学錬成 S		数学研究 S	化学	選 生物物理	体育	英語 III	コミュニケーション	英語表現 II	総合的な探究	LHR																					
	単位	2	2	3	4		3	4	4	2	4		2	1																						
		合計																																		
		32																																		

備考 自由選択科目として、「グローバルリサーチ」を設置します
 「グローバルリサーチ」非選択者の単位数合計は表の合計よりも1少なくなります
 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

創造科学科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1 学年	科目	国語総合					理数数学 I			理数化学	理数物理	理数生物	体育	保健	書道 I	音楽 I	英語 I	コミュニケーション	英語表現 I	情報の科学	※ 創造基礎	※ RRE	※ 課題研究	LHR	※総合的な探究											
	単位	5					5			2	2	2	3	1	2	3	2	3	2	1	2	2	1	1	1											
		合計																																		
		34																																		

2 学年	科目	現代文 B	古典 B	世界史 A	地理 A	日本史 A	理数数学 II	理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	体育	保健	英語 II	コミュニケーション	英語表現 II	家庭基礎	※ 創造応用 I	LHR																	
	単位	2	3	2	3	3	2	1	1	1	2	1	1	4		2	2	3	1																	
3 学年	科目	現代文 B	古典 B	地理 B	世界史 B	選 倫理		政治経済	理数数学 II	理数数学特論	理科探究 II	体育	英語 III	コミュニケーション	英語表現 II	創造応用 II	LHR																			
	単位	2	3	4		2		3	3	2	3	2	3		2	2	1																			
		合計																																		
		33																																		

2 学年	科目	現代文 B	古典 B	世界史 A	地理 B	理数数学 II	理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	選 理数生物	選 理数物理	体育	保健	英語 II	コミュニケーション	英語表現 II	家庭基礎	※ 創造応用 I S	LHR																
	単位	2	2	2	2	4	2	2	2	2	1	2	1	1	3		2	2	3	1																
3 学年	科目	現代文 B	古典 B	地理 B	理数数学 II	理数数学特論	理数化学	選 理数生物	選 理数物理	体育	英語 III	コミュニケーション	英語表現 II	創造応用 II S	LHR																					
	単位	2	2	3	4	3	4	5	2	3	2	3	2	1	1																					
		合計																																		
		33																																		

備考 ※について:前期(9月まで)創造基礎(B)1時間+※1時間 後期(10月から)課題研究1時間+※1時間で実施します
 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

令和2年度入学生(75回生)教育課程一覽

普通科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
1 学年	科目	国語総合				現代社会	数学I	数学II	数学A	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	保健	書道I	美術I	音楽I	英語I コミュニケーション	英語表現I	家庭基礎	LHR	※総合的な探究	※グローバル																合計
	単位	5				2	2	1	2	2	2	2	3	1	2	2	3	2	2	2	2	2	1	1	2	3	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	34	

2 学年	科目	現代文B	古典B	世界史A	選 地 日本史 理 A A		数学II	数学B	理科探究I	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	情報の科学	総合的な探究	LHR																					合計
	単位	2	3	3	3		3	2	2	2	1	5	2	2	1	1																					
3 学年	科目	現代文B	古典B	地 世界史 理 B B B	選 倫 理 政治 経済		数学II	数学III	数学II	数学III	理科探究II	体育	英語III コミュニケーション	英語表現II	総合的な探究	LHR																					合計
	単位	2	3	4	2		3	2	3	2	3	3	2	2	1	1																					32

2 学年	科目	現代文B	古典B	世界史A	地 理 B	数学II	数学III	数学B	化学	生物	物理	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	情報の科学	総合的な探究	LHR																		合計
	単位	2	3	2	2	3	1	2	2	3	2	2	1	3	2	2	1	1																		
3 学年	科目	現代文B	古典B	地 理 B	選 数学III 数学III S		数学III	数学III	化学	物理	生物	体育	英語III コミュニケーション	英語表現II	総合的な探究	LHR																				合計
	単位	2	2	3	4		3	3	4	4	4	2	4	2	1	1																				32

備考 自由選択科目として、「グローバルリサーチ」を設置します
 「グローバルリサーチ」非選択者の単位数合計は表の合計よりも1少なくなります
 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

創造科学科

選は枠内の1科目を選択

※は特定の期間で実施

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
1 学年	科目	国語総合				理数数学I			理数化学	理数物理	理数生物	体育	保健	書道I	美術I	音楽I	英語I コミュニケーション	英語表現I	情報の科学	創造基礎	RRE	※課題研究	LHR	※総合的な探究															合計
	単位	5				5			2	2	2	3	1	2	3	2	2	2	1	1	2	1	1	2	3	2	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	34	

2 学年	科目	現代文B	古典B	世界史A	地 理 A A	理数数学II	理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	※創造応用I S	LHR																				合計
	単位	2	3	2	3	3	2	1	1	1	2	1	4	2	2	3	1																				33
3 学年	科目	現代文B	古典B	地 理 B B B	選 倫 理 政治 経済		理数数学II	理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	理科探究II	体育	英語III コミュニケーション	英語表現II	創造応用II L	LHR																				合計
	単位	2	3	4	2		3	3	2	2	3	2	3	2	3	2	1																				32

2 学年	科目	現代文B	古典B	世界史A	地 理 B	理数数学II	理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	体育	保健	英語II コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	※創造応用I S	LHR																			合計
	単位	2	2	2	2	4	2	2	2	2	1	1	3	2	2	3	1																			
3 学年	科目	現代文B	古典B	地 理 B	選 理数数学II		理数数学特論	理数化学	理数物理	理数生物	理科探究II	体育	英語III コミュニケーション	英語表現II	創造応用II L	LHR																				合計
	単位	2	2	3	4		3	4	2	2	5	2	3	2	2	1																				32

備考 ※については:前期(9月まで)創造基礎(B)1時間+※1時間 後期(10月から)課題研究1時間+※1時間で実施します
 始業時刻は8:30 6限の日は14:55終了 7限の日は15:55終了
 次年度以降の教育課程は実施予定であり、今後変更されることがあります

令和2年度指定 地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(グローバル型)

研究開発実施報告書・第3年次

発行日 令和5年3月
発行者 兵庫県立兵庫高等学校
校長 福浦 潤
住 所 神戸市長田区寺池町1丁目4-1
TEL (078) 691-1135
FAX (078) 691-1136
印刷所 三和印刷株式会社